

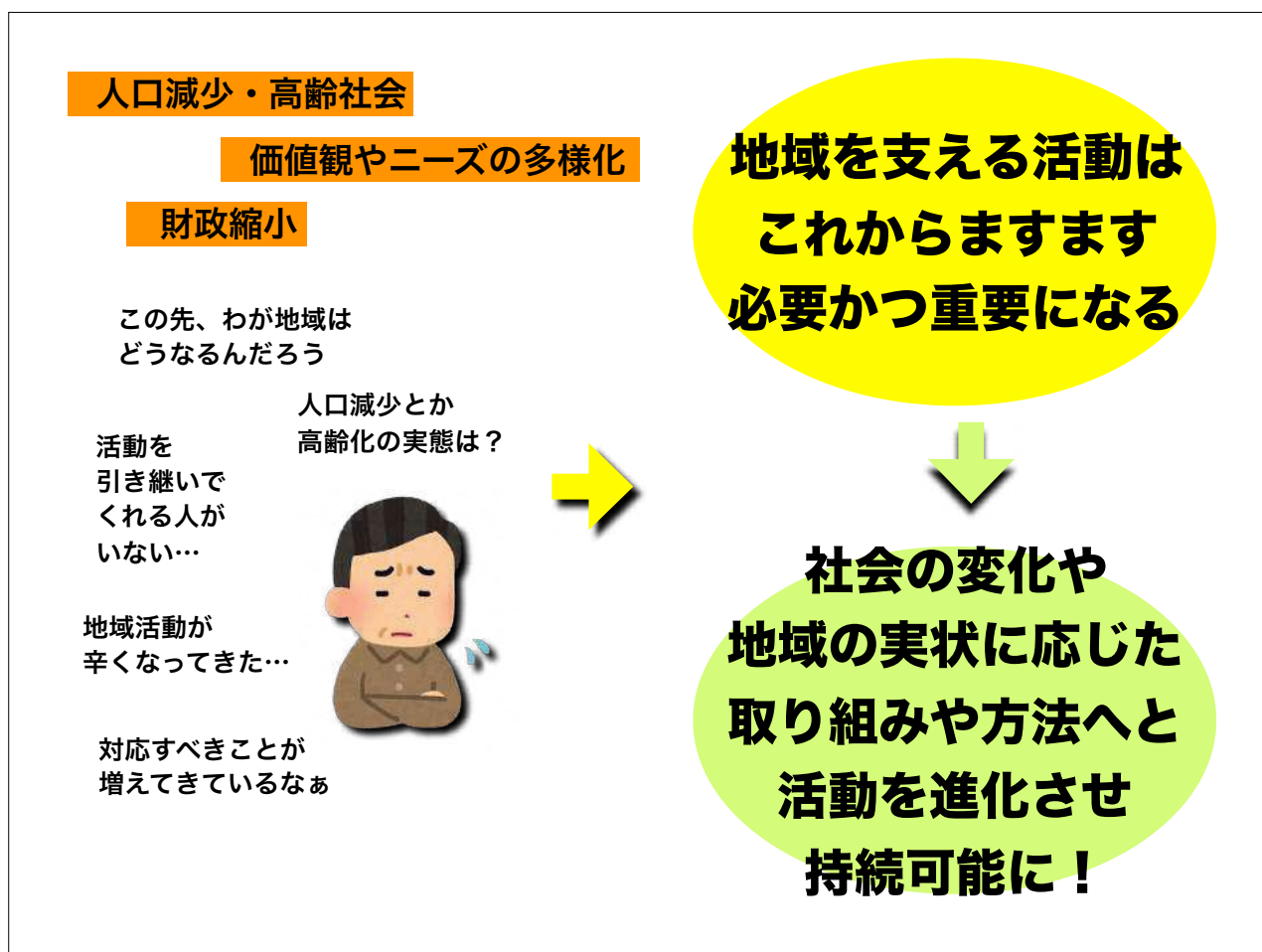


おらのまち「しゃべろて」会議〈第1回〉

コミュニティの予測される将来の姿と 持続可能な地域活動に向けて

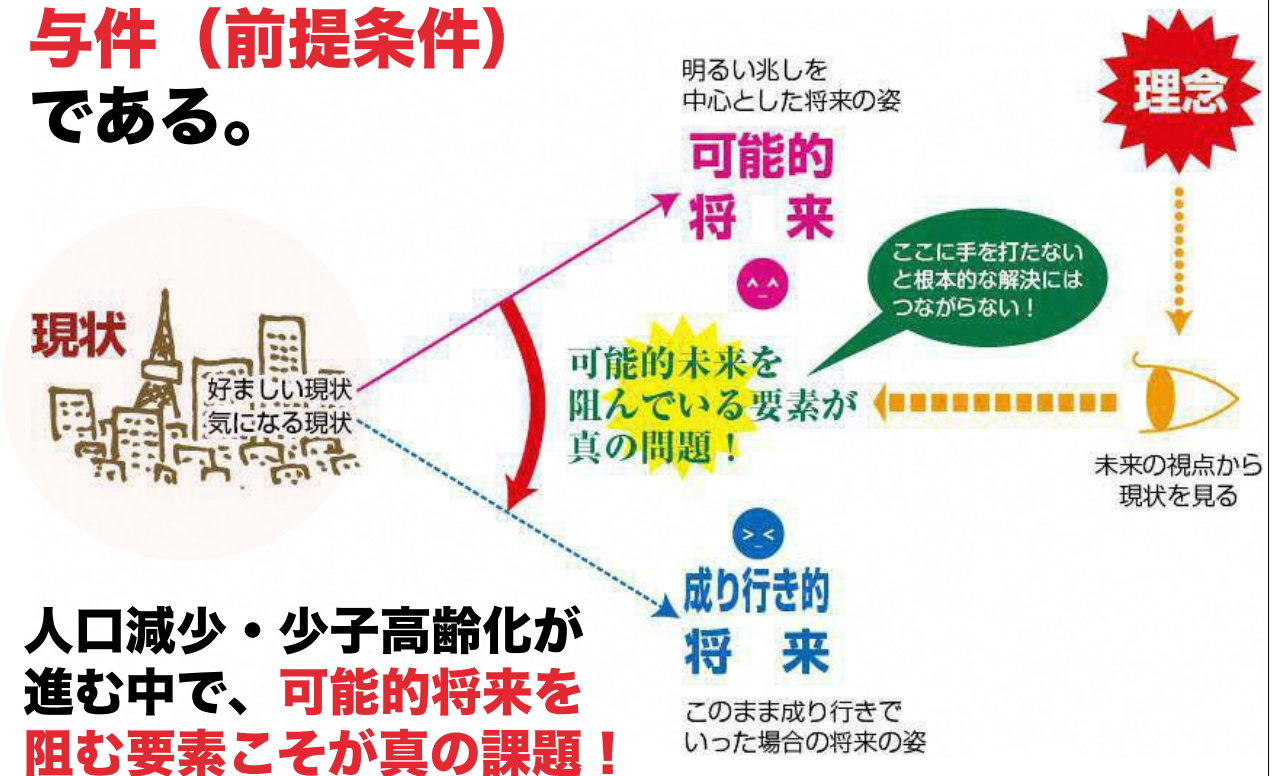
2020.8.20/NPO法人まちづくり学校・山賀昌子

1



2

人口減少・少子高齢化は課題ではない！ 与件（前提条件） である。



3

地域を支える活動が持続可能となるには

- 「めざす地域の姿」と地域活動の必要性を地域の人たちが理解・共有している
- 地域のニーズに応え、めざす姿に向かう取り組みがなされている
- 活動する人たちがいて、無理なくできる・楽しめている
- 活動に必要なモノやお金がある、
または生み出すしくみや代わりとなるものがある

4

これからを考えるには
まず冷静に
現状と予測される将来の姿を
知ることから

5

持続可能な活動に向けてのスタート

- 1) 現状や予測データから将来起こりうることを理解する
➡ **めざす地域の姿や取り組みの方向性を探る**
- 2) 地域のニーズを把握する
➡ **アンケートなどで住民の声を聞き、望むこと・困っていることを把握して真にやるべきことを判断する**
- 3) 現在の活動の実態をつかみ評価する
➡ **やるべきことを実行するための体制・体力を生み出す**

6

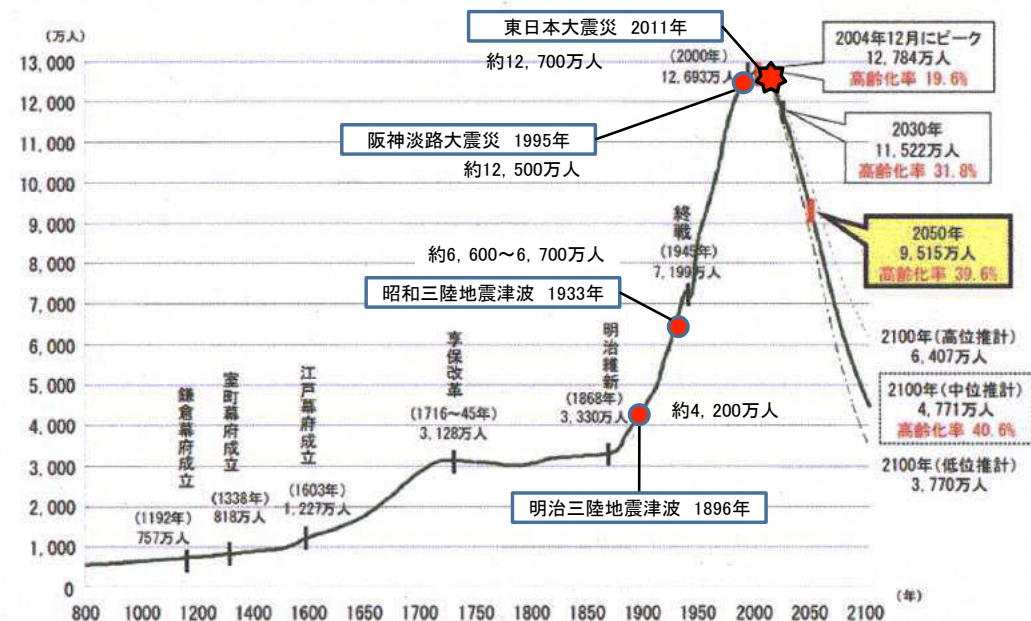
人口の推移と将来予測

～地域はこれからどうなるか～

7

長期の人口推移

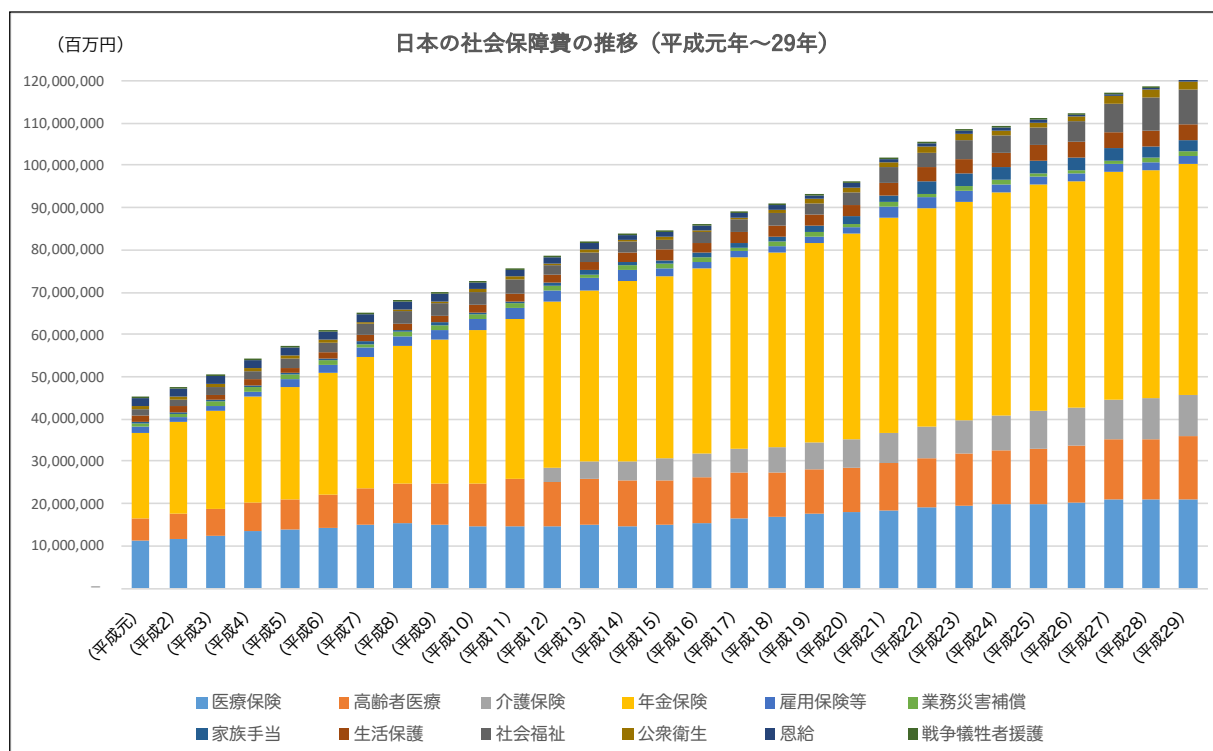
○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻っていく可能性。この変化は千年単位でみても類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

資料—国土交通省作成資料

8



国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」より

人口減少は避けられない現実



人口減少よりも大きな問題は
人口構成の変化

	各年の国勢調査データ				増減率から算出		
見附市	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
人口（人）	43,518	42,640	41,741	40,554	38,762	36,724	34,571
0～14歳	6,722	5,904	5,362	4,906	4,521	4,222	3,926
		15年間で27.0%減少			今後さらに20.0%減少		
15～64歳 (A) (生産人口)	27,966	26,705	25,466	23,491	21,682	19,981	18,555
		15年間で16.0%減少			今後さらに21.0%減少		
65歳～ (高齢者率)	8,830	10,031	10,913	12,157	12,558	12,522	12,090
	20.3%	23.5%	26.1%	30.0%	32.4%	34.1%	35.0%
		15年間で37.7%増			74歳以下は減少し75歳以上が増加		
65～74歳	5,138	5,279	5,289	5,897	6,082	5,454	4,937
75歳～	3,692	4,752	5,624	6,260	6,476	7,067	7,154
85歳～(B)	899	1,156	1,512	2,008	2,227	2,330	2,325
※85歳以上の4人1人が要介護3以上／要介護3以上の2人に1人が85歳以上							
A÷B	31.1人	23.1人	16.8人	11.7人	9.7人	8.6人	8.0人

※2015年の高齢者率 新潟県平均：29.85% 全国平均：26.63%

11

数字の意味を知ると、見えてくるものが変わる

地域における年齢層・世代の意味

65歳以上 ➡ 高齢者

でもお元気な方たくさん
いらっしゃいますよね？

65～74歳



いま地域の住民自治を
支えている世代

75歳以上



=後期高齢者

地域を支える側から
自らが支えられる側に

85歳以上



4人に1人が要介護3以上

※要介護3以上の2人に1人が85歳以上というデータも
(国勢調査より既に明らかになっている事実)

	各年の国勢調査データ				増減率から算出		
北谷北部	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
人口（人）	3,919	3,928	3,823	3,768	3,627	3,463	3,287
0～14歳	650	625	559	503	482	467	452
		15年間で22.6%減少			今後さらに10.1%減少		
15～64歳 (A) (生産人口)	2,665	2,552	2,364	2,174	2,018	1,907	1,818
		15年間で18.4%減少			今後さらに16.4%減少		
65歳～ (高齢者率)	604 15.4%	751 19.1%	900 23.5%	1,091 29.0%	1,127 31.1%	1,090 31.5%	1,017 30.9%
		15年間で80.6%増			地域活動の担い手の世代は40.1%減少		
65～74歳	370	445	532	619	552	428	371
75歳～	234	306	368	472	575	662	646
85歳～(B)	50	77	94	137	156	191	233
※85歳以上の4人1人が要介護3以上／要介護3以上の2人に1人が85歳以上							
A÷B	53.3人	33.1人	25.1人	15.9人	12.9人	10.0人	7.8人

※2015年の高齢者率 新潟県平均：29.85% 全国平均：26.63%

13

人口は減る。
 だけど大切なことは
そこに住む人が幸せ
 であること



困りごとを解決する（または
 将来困りそうなことに備える）

地域住民のニーズに応え、
 ありたい地域の姿に向かう

やっていて楽しい

という
 取り組みに
 していく

- ❶ 冷静に現状を見据え、将来への備えを今から始める。（住民自治の進化が不可欠）
- ❷ 高齢者には、できるだけ長く元気でいてもらう（活躍の場がある）ことは不可欠！
- ❸ 若者世代は少数派。丁寧に意向を聞くということをしないと、多数派（中高齢者層）に埋没してしまう。

15

これからの時代の地域づくりに求められるのは

住民活動ではなく**住民事業**
経済を含めた**住民自治**
分野横断による**複数機能**



小規模多機能自治

16

大切なのは
自分たちで考え、実行する
という**住民自治の再構築！**

行政は確かにこれから大変になる。
しかし、コミュニティは行政の肩代わりをやる組織ではない。

もともと地域自らでやっていたこと
(社会の発展により行政に任せるようになってしまったこと) を、
将来に備えて再構築するための**体制づくり**が真のねらい。

17

地域のニーズを把握する
～住民意識の見える化～
中学生以上全住民アンケート

18

アンケートのねらいは

住民一人一人の意識の見える化

■従来のアンケートは1世帯1枚。

世帯主（お父さん）が答えることが多く、若い世代をはじめ多世代の意向がつかみづらい。

➡ 次代を担う若者（中学生以上）を含めた全住民を対象とする。

■単純集計でなく、世代別や男女別で集計し、結果が意味することを読み解く。

19

事例：新潟市小合地域コミュニティ協議会での中学生以上全住民アンケート

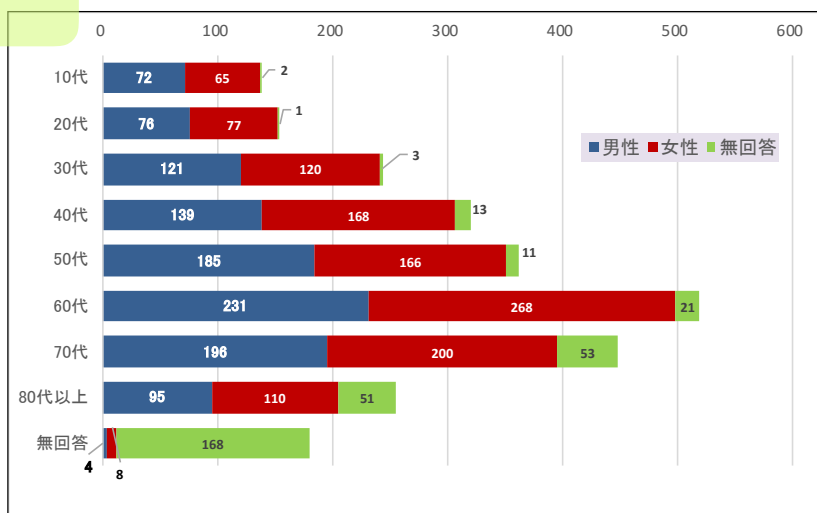
配布数 2,913通

回収数 2,624通

（中学生は学校で記入）

回収率 90.1%

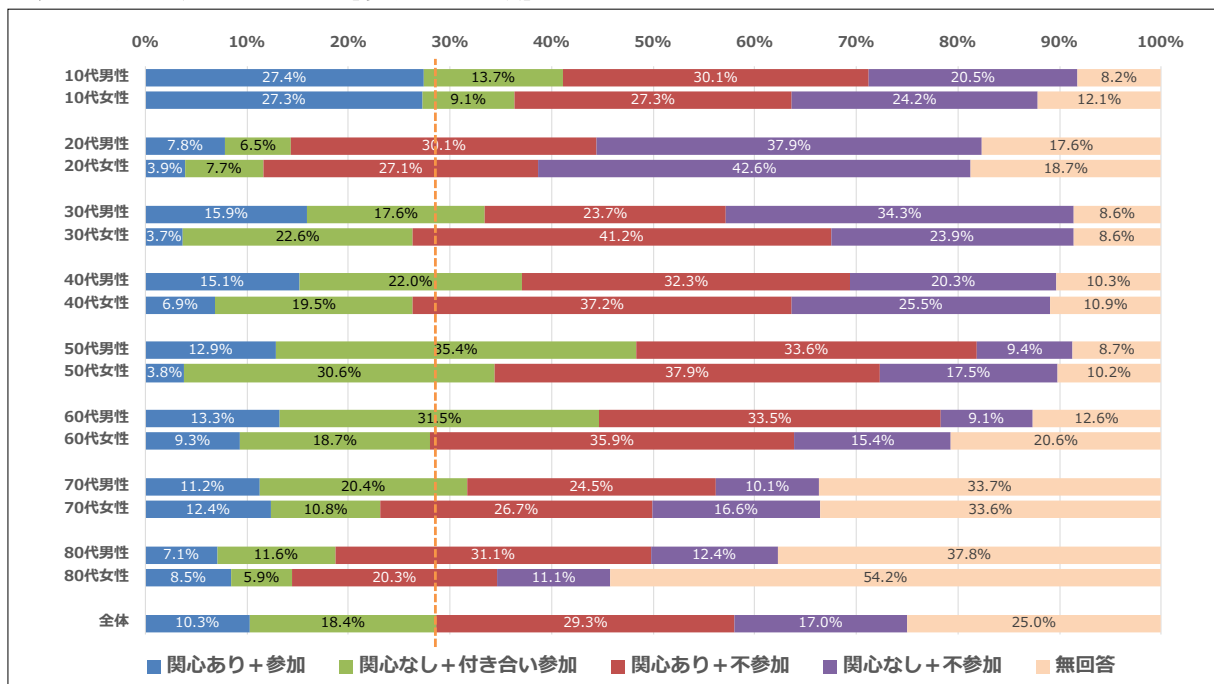
自治会の協力で
役員や班長さんたちが全世帯をまわり
配布・回収



20

事例：小合地域コミュニティ協議会アンケート結果

Q. 地域活動への関心（参加状況順）



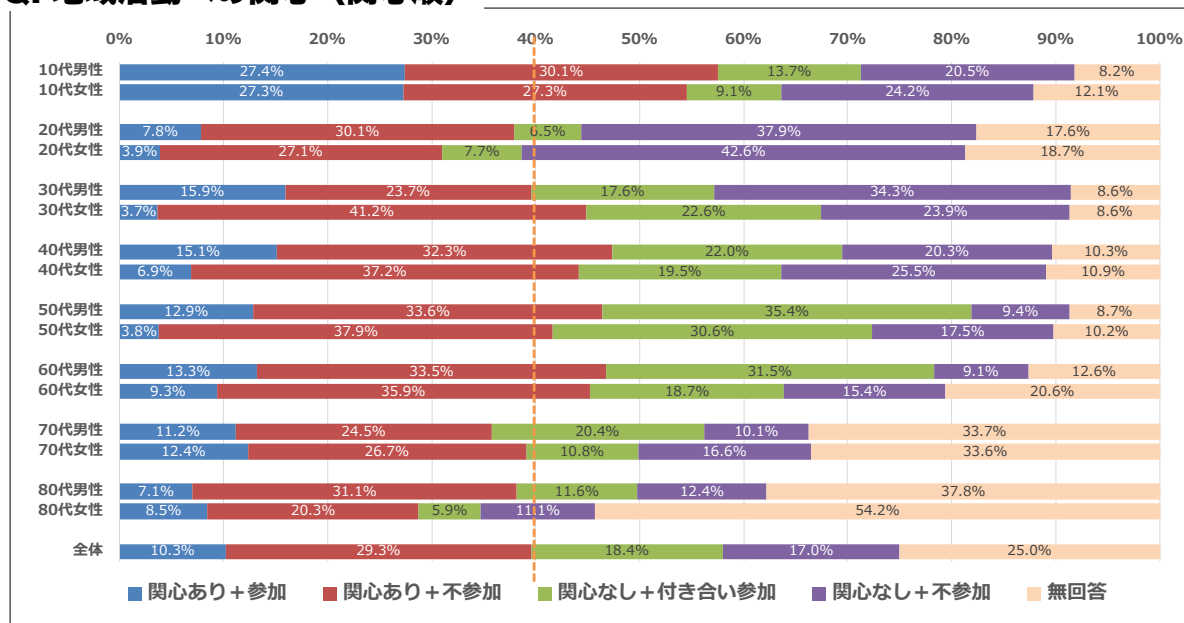
- ・関心のあるなしに関わらず、参加している人は全体の28.7%と約3割。しかし、「関心あり+不参加」は29.3%とほぼ同数。

13

21

事例：小合地域コミュニティ協議会アンケート結果

Q. 地域活動への関心（関心順）



- ・関心がある人は約4割。そのうち参加していない人は約3割。
 - ・若い世代も「関心はある」20代の参加は圧倒的に少ないが、10代は平均値より高い。
 - ・全般的に男性の参加が多く女性の参加は少ないが、関心がある女性は多い。
- 「関心はあるが参加していない」
→阻害していることを除く、取り組みの内容ややり方を考慮するなどで参加を促せる？
○子育てや教育関係の取り組みで女性を登用することで関わりが増えるのでは。

14

22

現在の活動を見直す

～まずは自治活動の全体量の把握を～

行事・会議・組織の洗い出し

23

例：宮城県白石市斎川地区

人口：1,000人弱（H27）
高齢化率：36.75%

行事・会議・組織の洗い出しを
ざっくりと行ってみたら…

年間のべ活動時間（会議含む）

5,133時間

→14.1時間/日

年間のべ活動回数（会議含む）

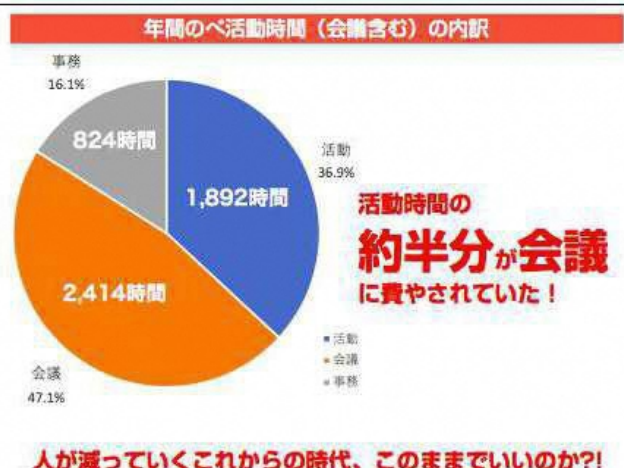
817回

→2.2回/日

年間のべ従事人数（会議含む）

2,875人

→2.8役/人



24

これからの地域運営、課題への対応には時間の使い方を変えるしかない。

活動を見直し（リストラ）しよう

リストラ（restructuring）は廃止や切り捨てではない。
そもそもの意味は **「再構築」**

分かち合う

たくさん抱えている役割や作業を分担する

統合する

単独でやるのではなく「他と一緒にやる」
（より効果的に実施→これも一つの進化）

現行の目的を 再設定（変更） する

例：防災訓練＝炊き出し訓練＋住民交流
＝避難や救助訓練＋運動会
地域の茶の間
＝高齢者サロン＋放課後の学童保育

各地でさまざまな取り組みが
始まっています
～事例紹介～

十日町市新宮集落 壮年の会

地区内には

- ・ 20～50歳前後の若者が集まる会
- ・ 70代以上の老人会はあるが…

- ◇ 50歳～70歳の間の男性が集まる会がない
- ◇ 退職後、人と会話する機会が減る
- ◇ 地域とのつながりを持ちにくい

この世代の「居場所づくり」が必要

「壮年の会」を設立

2ヶ月に1回程度、集落センターで楽しく酒を飲み交わし、情報交換をする場

**つながりができる
仲間ができると一緒に何かやりたくなる→地域へ
引きこもりにならない**



27

静岡市瀬名川一丁目自治会～時代が求める活動へ

住民約2700名の自治会「瀬名川一丁目自治会」

3つの課題と対応

(1) 自治会活動を知ってもらう

→ 「活動の見える化」

無料のブログを活用し、若手向けに活動内容をはじめとする自治会の情報を発信・共有している。ポイントは、広報誌などの紙ベースも忘れないこと、そして背伸びをせず継続をすること。

(2) 高齢者への配慮

→自治会費の減免を行ったり組長活動の免除など、高齢者への負担軽減を行う。配慮の度合いは各組の判断。

(3) 役員の担い手不足

→地域に誇りを持つために口ゴや旗を作って盛り上げ、自治会活動を楽しんでもらえるような工夫を心掛ける。

**3つの約束も
あります**

**毎年自治会行事を
見直す**

できることからやる

役員自らが楽しむ

28

妙高市瑞穂地区～高齢者との情報共有・連絡

高齢者向けのLINE講座



高齢者でもLINEが使えるように
地域おこし協力隊の方が講師と
なって開催

→住民どうしのつながりづくり
家族との連絡
地域情報の共有

NPO法人「みずほっと」会員の皆さまへ

はじめてのLINE講座

あなたも
**話題のLINEが
出来るようになる！**

日時： 5月毎週火曜日(4回)
6月毎週火曜日(4回)
19:30～21:00

場所：瑞穂会館

定員：20名

参加費200円(お茶、お菓子付き)

スマートフォンもしくはタブレットをお持ちください。
(契約時の書類をお持ちください)

☆スマホを持っていない方も気軽にきてください☆

【講座内容は裏面をごらんください】

無料で通話や
メッセージを楽しみましょう！

LINE

LINE経験者の方も
サポートで来ていただけると
嬉しいです。

主催：NPO法人「みずほっと」
講師：諸岡 龍也

「お孫さんと今よりも
会話できますよ！」
で誘う。

組み合わせ（掛け算）から 新しい価値が生まれる

何と何を掛け算するか？



全く違う（または接点のない）分野・領域を
掛け合わせてみる

防災運動会

～運動会形式で楽しく防災知識を深めよう！～

日程 平成30年11月3日(土)

時間 9:30～受付
10:00～12:00 競技

場所 県立鳥屋野潟公園
鐘木地区「多目的広場」

料金 無料

定員 60名程度

対象 どなたでもOK

服装 動きやすい格好、運動靴

申込み 025-284-4720 まで

賞品あり!!
なんと、1～3位に入賞したチームには豪華賞品が!!
(全員に参加賞あり)
防災に関わるグッズだよ!
詳しい内容は楽しみに!

競技種目はこちら!!

大声コンテスト おおごえでさけぶ 	水消火器による的当て 	毛布担架レース 	防災〇×クイズ ○か!? ×か!?
--------------------------------	-----------------------	--------------------	------------------------------------



活動の組み合わせの例

31

島根県雲南市・鍋山地区での事例

水道検針業務 × 地域自主組織

→ 住民による高齢者の見守り
地域自主組織の財源確保

32

暮らしの身近なことの中に、
大切なポイントが潜んでいる。

包丁研ぎ

笑んがわ市で地元住民が有償で実施。



【笑んがわ市でのお年寄りのつづやき】
最近、包丁がよく切れなくなってきた。
切れないもんだから、自分で料理を作る
のが億劫になってきて・・・。

**包丁研ぎは
介護予防につながる！**



これまでのイベントや行事から
困りごとを楽しみながら解決できる知恵と工夫が求められる



課題から考えるのも大切ですが、
結果として解決される
であってもよい。

最初は
妄想
でOK。



構想
を練る。



**歩きながら
考える
やってみる**

妄想：思いつきのまま
構想：実現の手順もある

地域の中には必ず 希望の種がある

整理・統合・組み合わせにより
負担軽減と実施効果を高める

楽しさを生み出す

II

マンパワー確保と満足度向上



未来に向けた
課題解決・自治活動
を実行

35

くさなぎコミュニティでも将来に向けて動き出しましょう
まずは「現状を把握」し、これからどうするかを考える

●地域の現状やこれからを学ぶ勉強会

●住民の声を聴き、
地域のニーズを把握する

●現在の活動を見直す
(活動の洗い出しや評価)

●結果をもとに、新たな計画やしくみを組み立てる

36